

「選びの喜びをもって～志のバトン～」

(歴代誌第一 28章 1節～10節)

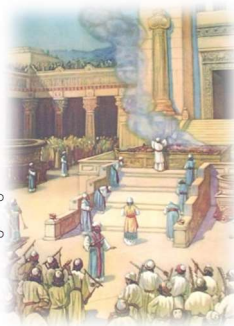
牧師：原 雅幸

序1) 聖書を学ぶ喜び

- ・聖書に記された出来事が「なぜ伝えられたか」を問う時、心躍る神の声を聴くことができる。

序2) 歴代誌が書かれた意図～神殿建設の志は誰の手に？～

- ・歴代誌 28章は、ダビデからソロモンへと神殿建設の志が伝えられる場面
- ・歴代誌が書かれたのはバビロン捕囚から帰還後、神殿の再建が始まる頃。
- 同じ神を信じ、同じ神の神殿を建てる人々へのメッセージがある。
- 教会は、神の神殿（第一コリント 3:9 以下、第一ペテロ 2:5 他）
- ・聖書の言う神殿（聖所）は建物ではなく、神が栄光の臨在を現し人々と出会い、力と導きを与えることのできる場・状態のこと。「いのちの水の泉」にたとえられる。



1) 神殿を建てるのは誰か？

- ・歴代誌では「ソロモン」が中心人物。→キリストのひな型。
- ・歴代誌でも「ソロモン」だけでなく、大勢の協力者がいた。
- 霊的神殿は、私たちが神殿を構成する「石」である。

2) 神殿を建てる動機は何か？

- ・ダビデ王は、息子の数にも数えられない存在だった。しかし神が不思議に彼に目を留めて選んでくださった。→選びの喜び
- ・「全き心」⇨シャロームの心：神の選び、赦し、受容に安心する心。
- ⇨何者かにならなくてはという「強迫」や、何かをすればという「取引」ではない。→「喜びの気持ち」＝「喜びのたましい」＝存在の喜び

3) 神殿を建てる方法は何か？

- ・物質的側面（材料の準備）はあったが、霊的準備の方が重要。
- ・神殿建設の担い手が「主の命令をすべて守り、求める」態度をもつこと。
- ・「求める（ダーラシュ）」とは、主の命令の永続的意図を生かす道を探ることと、実行するにあたって、必要な知恵や力を求めることが含まれる。

結) 神殿が建てられるときに

- ・「良い地（このいのちで味わうことのできる祝福の象徴）」を所有する。
- ・「子孫に受け継がせる」＝未来へと祝福が流れていく。

名前()

◆お話を聞きながら、答えを考えましょう。

① ダビデ王は、ソロモン王に何をしてほしいか。

.....を建ててほしい。

② 聖書では、「神殿」はどのようだと教えられているでしょうか。○×で答えましょう。

- () 神様と会えるところのこと
- () 神様の像が置いてあるところ
- () 礼拝をするところ
- () 神様が力や導きを与えるところ



◆お話を聞いた後で、考えましょう。

* あなたは、神様の目に見えない神殿を建てるのに協力したいと思えますか。どうしてそう思いますか？

* 自分が、神殿を建てるのに協力するとしたら、まず始めなくてはならないことは、何だと思えますか。

みんなで一週間考えてみよう!

～教会クイズ（教理問答）～

Q018 使徒信条は何を伝えていますか。

A018 なる神、 なる神イエス・キリスト、
 なる神を伝えています。